

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成24年4月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

円滑な病診連携を目指して



病院長 棚橋 忍

当院は大正11年飛騨三郡立大野郡病院から日本赤十字社に移管され高山赤十字病院となって本年で90年目になります。この間飛騨地域の医療に貢献してこられたのも開業医の先生方のご理解、ご協力の賜物と感謝申し上げます。

国は少子高齢化による医療費を支える人口の減少、高齢者の医療費の自然増等により、医療機関の機能分化・連携を政策に掲げ、病診連携を強く推し進めています。当院は平成13年病診連携室を立ち上げ、医師会の先生方への説明、患者さんへの啓蒙、院内部署の整備を行い、平成23年9月地域医療支援病院となりました。この制度は紹介患者さんを円滑に受け入れるため、医療機関（かかりつけ医）との連携を強め、症状の安定した患者さんは地域の先生方に診ていただくことを基本としています。このような視点から当院は市民の皆さんに初期医療には日ごろからかかりつけ医に診ていただくようかかりつけ医を持つと呼びかけています。平成24年の診療報酬の改定からは病院医療と在宅医療の連携の強化が読み取れ、今後この方針は変わらないと思います。救命センターを有する当院の機能が十分発揮され、地域医療を確保していくためには、初期医療は地域の開業医の先生方をお願いし、検査、入院等が生じましたらご紹介いただく連携が進みますよう努めてまいります。

相変わらず各地域で医師不足が深刻で、飛騨地域においても同様に医師が不足し医療の確保が危惧されております。当院に求められている急性期医療、高度医療を遂行する観点から見ますと、内科、外科、麻酔科、産婦人科、心療内科等の医師が不足し、残っている医師の外来、入院、救急、日当直等での負担が強くなっています。今回の診療報酬改定において医師の負担軽減に配慮されておりますが、医療連携が進むことにより負担が軽減される部分もあると思います。今後さらに何が可能か検討を開始しております。

当院は今後とも医療の確保に努め、地域の皆様の健康増進に努めてまいり所存ですので、地域の先生方、介護・福祉、行政の関係者の皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

目次

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| ● 病院長あいさつ …………… 1 | ● 新任医師の紹介 …………… 5.6 |
| ● 医療社会事業部長あいさつ …………… 2 | ● 新任研修医の紹介 …………… 6 |
| ● 第11回病診連携症例検討会報告 …………… 2 | ● 退任医師 …………… 6 |
| ● 第3回がん早期診断症例検討会報告 …………… 3 | ● 編集後記 …………… 6 |
| ● 飛騨高山糖尿病地域連携講演会報告 …………… 4 | |

地域医療連携だよりに寄せて

医療社会事業部長 浮田 雅人



平成 23 年 9 月、当院は飛騨地域で初めて地域医療支援病院の認定を頂きました。多大なご支援を頂きました行政、医療、介護ならびに福祉関係の皆様深く感謝申し上げます。

そこで、これまで以上に地域の医療機関等との連携を密にし、より良い医療連携を築き、発展させることを目指し、「地域医療連携だより」を発行することに致しました。紙面では医療連携に関するさまざまな記事を取り上げ、年 4 回お届けする予定です。

さて、当院には登録医制度を設けております。登録医の先生方には、最新の外来担当医表、研修会や講演会のご案内など当院の情報をダイレクトメールでお届けしております。また、CT や MRI などの医療機器共同利用、開放型病床、病院図書室なども利用して頂けます。登録医証の提示により、当院を訪問して頂いた際の駐車券は無料化致します。まだ登録医にお申し込み頂いていない先生方には、是非ご登録をお願い申し上げます。

最後に、飛騨地域の医療体制の維持・発展と、この紙面をお読み頂いた皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶と致します。

第11回 病診連携症例検討会 報告

平成 24 年 2 月 15 日 (水)

「教育入院にて在宅酸素療法を導入し 施設に戻った非結核性抗酸菌症の 1 例」

呼吸器科 副部長 細江 敦典



[症例]

73 歳男性。高山市出身。非結核性抗酸菌症にて東京で半年近く入院の後、高山市内の高齢者用賃貸住宅に転居し、市内開業医に紹介。両側間質性陰影、厚い隔壁を伴う嚢胞性病変、左慢性気胸あり。1 型呼吸不全で労作時呼吸苦が強く、在宅酸素療法 (HOT) 導入目的に当院入院。呼吸リハビリ、生活指導、服薬指導、栄養指導などを開始するも、病識は乏しく自己管理困難。認知症がかなりあると入院後に判明。訪問看護やデイサービス導入とし、住居も住宅型有料老人ホームへ変更の上で、HOT 導入し退院。

[考察]

当院では地域と病院の情報共有ツールとして HOT 地域連携クリティカルパスを作成運用している。HOT 患者の入院中に基本事項と調整事項の 2 つの書式からなる「退院調整計画書」を作成する。各職種 (医師、病棟看護師、健康相談室、リハビリ、臨床工学技士、医療社会事業課、薬剤師、栄養士) が、電子カルテ上で同じ文書に自由に上書きでき、患者指導と同時に随時書き足していく。また HOT 導入の院内マニュアルもある。毎週水曜日には HOT カンファを行い、退院調整計画書に沿って各職種が担当事項を報告し、様々な問題をまず院内のスタッフで共有するシステムができている。必要時には院外の訪問看護スタッフなどの参加も行っている。

第3回 がん早期診断症例検討会 報告

平成 24 年 2 月 15 日 (水)

「前立腺がんの診断」

泌尿器科 部長 柚原 一哉



日本において、前立腺がんは急増しており、2020年には肺がんに次いで2番目に多い男性のがんとなり、死亡率も2000年の2.8倍になると推定されています。根治可能な早期前立腺がんには特有な症状はなく、診断に最も重要なのはPSA（前立腺特異抗原）の測定です。PSAは前立腺良性疾患でも上昇しますが、4ng/mlより高値を示した場合にがんの検出率が高くなるため、4ng/mlがPSAの基準値となっています。基準値以上の受診者には直腸診（がんは石様硬）、超音波検査（がんは低エコー）、MRI（がんはT2で低信号）を施行し、確定診断として前立腺生検をお勧めします。当院では腰椎麻酔下、2泊3日入院で施行しています。当院でのPSA別の前立腺がん検出率を示します（図1）。PSAが10ng/ml未満では約30%、20ng/ml以上では約80%のがん検出率でした。生検でがんが検出された患者さんには骨シンチグラフィ、造影CTにて病期診断を行い、その病期に合った治療を開始します。当院でのPSA別の病期を示します（図2）。PSA低値で検出されたがんはより早期であることが分かります。かかりつけ医でのPSA検査の基準を示します（表）。PSA採血よろしくお願ひします。

図1 PSA別 癌検出率

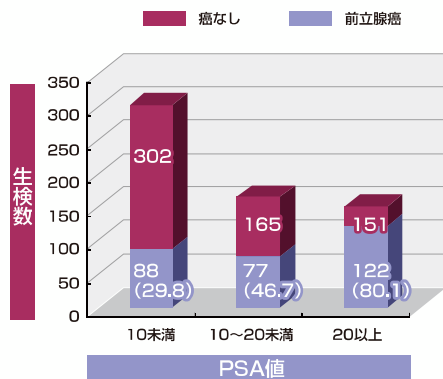
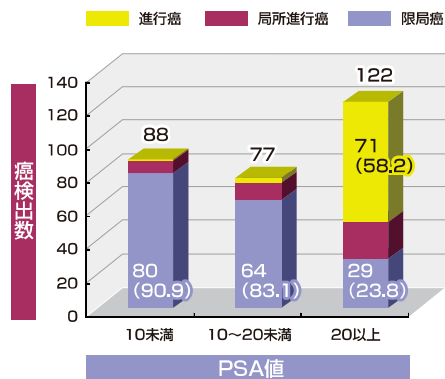


図2 PSA別 癌病期



かかりつけ医でのPSA検査

対象：50歳以上、前立腺癌の家族歴のある45歳以上

1) 病院へ紹介する基準となるPSA値

⇒4.01ng/ml以上

2) PSA値4.01ng/ml未満の際のfollow up方法

⇒1.0ng/ml未満 : 3年後PSA検査

1.0~4.0ng/ml : 1年後PSA検査

飛騨高山糖尿病地域連携講演会 報告

平成 24 年 3 月 4 日 (日)

「糖尿病治療における 薬剤師の関わり」

和仁薬局 薬局長 和仁 寿彦



平成 20 年 10 月にこの地域の薬剤師間の連携を推し進めるために薬薬連携連絡会が立ち上がり、喘息、震災で不足した薬品の調達などで成果を挙げている。今回、糖尿病での地域連携を模索するにあたり、開局薬剤師、医師及び病院薬剤師に糖尿病治療の意識や知識に対する記述式のアンケート調査を行った。

回答は、42 店舗中 32 店舗からあり回答率は 70% であったが、その内容については、各々の薬剤師の意識や知識にかなりの差を感じるものであった。一つの質問に対し複数の回答があると思われるものに一つの単語だけで回答する薬剤師もいれば、普段の思いを文書にして、切実な悩みとして回答している薬剤師もいた。糖尿病に対して、真剣に取り組んでいる薬剤師は全体の 1~2 割程度と推察され、この現状は非常に憂うべきことであり、早急に取り組むべき課題であるとする。

開業医からは「もっと薬のことを勉強して欲しい」との意見が複数あった。また、栄養士が傍らにいないことから、食事指導をしっかり行える場を求める要望も挙がった。

連携を考えるにあたってはその体制作りが重要視されるが、まずはそこに参加する薬剤師が意識や知識を高めることが大切であり、連携の一環として定期的に勉強会を開催し、その勉強会においては認定制度を設け、認定調剤薬局を関係医療機関に掲げることで、患者さんから見える連携への試みも必要ではないかと考える。また、食事指導については開局薬剤師が担える分野であり、医師・栄養士と協力して薬剤師が適切な食事指導を行えるような医療連携も必要となる。

これらの患者さんを中心に据えた「患者さんのため」の試みにより、真の「連携」が生まれ、この地域での医療連携の発展に向けての一助になるのではと考える。

「歯科からみた糖尿病」

おおのま歯科クリニック 院長 大埜間 勉



糖尿病がお口の中へ与える影響

歯周病は腎症、網膜症、神経障害、大血管障害、小血管障害に次ぐ第6番目の慢性合併症といわれています。糖尿病の人は免疫力の低下、唾液の減少・口腔乾燥、歯周組織の微小血管障害、歯周結合組織の代謝の異常によりそうでない人に比べ歯周病にかかっている率が高く、しかも重症化しやすく、治りにくくなっています。また虫歯も多く残っている歯の数が少ないことがわかっています。

お口の中の病気が糖尿病に与える影響

歯周病は糖尿病に限らず、心筋梗塞、動脈硬化、肺炎、低体重児出産など様々な全身疾患を悪化させている可能性があります。

歯周病菌はグラム陰性菌が多く、内毒素の産生が起こります。血液中の毒素は、内臓脂肪や肝臓を刺激して TNF- α を産生させます。この TNF- α はインスリンの働きを鈍らせ、細胞がブドウ糖を取り込んで消費する邪魔をします。つまり歯周病にかかると血糖値のコントロールが難しくなり、糖尿病を悪化させている可能性があります。

実際に歯周病を患っている糖尿病の患者さんが歯周病の治療をしたら、「血糖値が下がった」という研究結果も報告されています。

このような事から、糖尿病の管理をするうえで運動療法、食事療法はもちろん歯周病の管理も大事な要素になるのではないのでしょうか。

新任医師 の 紹介

2月に1名、3月に1名、4月に5名 計7名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。

- ①診療科・職名
- ②氏名
- ③専門分野
- ④専門医・認定医
- ⑤診療に対する
モットー&
自己紹介
など



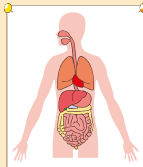
- ①循環器内科 医師
- ②吉眞 孝
(よしづね たかし)
- ③循環器一般
- ④日本内科学会認定医
- ⑤岐阜県総合医療センターより2月から赴任いたしました、吉眞と申します。飛騨地域の医療に貢献できる様、努めたいと思致します。よろしくお願い致します。



- ①産婦人科 医師
- ②市橋 享子
(いちはし きょうこ)
- ③産婦人科
- ⑤3月から高山赤十字病院でお世話になっております。まだまだ未熟な点は多数あるかと思いますが、頑張りますのでよろしくお願い致します。



- ①内科 消化器科部長
- ②下地 圭一
(しもじ けいいち)
- ③消化器内科
- ⑤高山市出身で下呂温泉病院から転勤して来ました。患者様が『自分の身内や知り合いならどのように診察するか』を基本に考えています。



- ①内科 医師
- ②杉山 智彦
(すぎやま ともひこ)
- ③消化器内科
- ⑤4月から高山赤十字病院で勤務させて頂くことになりました。今までは中濃厚生院、岐阜大学病院に勤務し、主に消化器内科を中心に診てきました。卒後6年目で、まだまだ未熟ではありますが、これから何卒宜しくお願い致します。



- ①外科 医師
- ②田尻下 敏弘
(たじりか としひろ)
- ③救急・外科
- ⑤平成24年4月より赴任することになりました田尻下(たじりか)といたします。研修終了後2年間救急を学び、今年より外科医を志し働いております。自分の家族を診てもらいたい医師となれるよう頑張ります。宜しくお願い致します。



- ① 外科 医師
- ② 岩田 至紀
(いわた よしのり)
- ③ 消化器外科一般
- ④ マンモグラフィ読影認定医
- ⑤ 岐阜大学を卒業後、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センターを経て赴任となりました。救急外科から、一般外科、腫瘍外科と幅広く医療に携わりたいと思います。若輩者ですがよろしくお願い致します。



- ① 耳鼻咽喉科 医師
- ② 柴田 博史
(しばた ひろふみ)
- ③ 耳鼻咽喉科
- ⑤ 平成21年岐阜大学卒業し、この4月からこちらの病院で働かせて頂くことになりました。高山は食べ物がおいしく、皆優しい人が多くとても良い環境と感じています。日々精進していきますので、よろしくお願い致します。

新任研修医の紹介

4月より9名の研修医が研修しておりますので、ご紹介いたします。
どうぞ宜しくお願いします。

すえつぐ ともなり
末次 智成

たかくわ しょうたろう
高桑 章太朗

ももせ たかし
百瀬 崇

やまうち あすか
山内 明日香

こじま しょうじ
小島 昭司

すずき み
鈴木 あさ美

なかむら あきひさ
中村 晃久

ばん てつあき
阪 哲彰

もり
森 みゆき

退任医師

循環器内科医師	湊口 信吾	1月31日付
消化器科部長	中井 実	3月31日付
呼吸器科副部長	宮田 雅史	3月31日付
消化器科医師	柴田 悠平	3月31日付
第二外科副部長	山田 慎	3月31日付
外科医師	佐藤 浩明	3月31日付
産婦人科医師	西澤 秀光	3月31日付
産婦人科医師	森 美奈子	3月31日付
耳鼻咽喉科医師	坂井田 譲	3月31日付
麻酔科医師	岩田 牧恵	3月31日付

編集後記

地域医療機関向けの広報誌を発刊するにあたり、当院の医療情報を広く伝えようと色々考えてみました。記載内容や写真等々……。原稿は院内外を問わず先生方をお願いしたところ、快く受けて下さり、こうして第1号「地域医療連携だより」を発刊することが出来ました。サブタイトルもつけようと職員に募集し“やまびこ”としました。地域とこだまして響き合えるような連携という意味と願いを込めています。

発刊は年4回を予定しております。又、記載内容で先生方のご要望がございましたら、是非お伝え下さい。

今後ともご意見、ご指導よろしく願いいたします。



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL: 0577-35-1880 FAX: 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ http://www.takayama.jrc.or.jp/